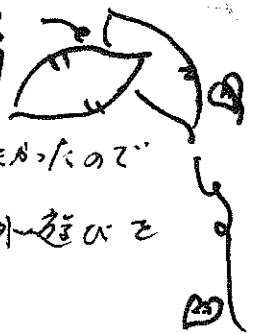


矢向あけぼの保育園だより 10月号



10月に入り急に陽気がおおむね秋がぐんと深まってきました。夏の陽気も長かったので気温の変化の激しさについていけず、体調を崩しているお友だちもいます。戸外遊びを思いきり楽しめる時期でもありますので、体調を整えながら、たしていきましょう。

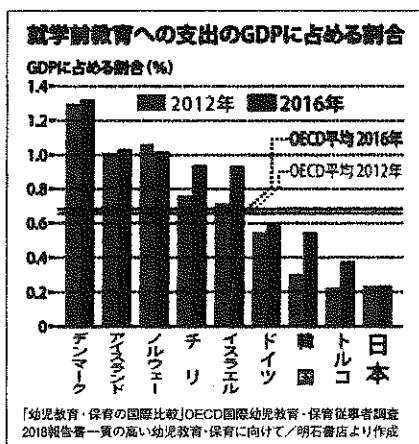
今月は、運動会と大きな行事があります。4年ぶりの乳児、幼児合同開催となり、この形で初めて参加する子どもたちがほとんどです。職員も又新しくつくっていくような気持ちで準備を進めています。練習では、のびのびとやっている姿を見せてくれています。当日は違った姿になってもらうかもしれません。あたたかいご声援をお願いします。

～子どもたちの健やかな育ちを保障するための署名取り組みのお願い～

毎年この時期に、署名の取り組みのお願いをしています。秋は次年度へおける予算編成の時に、各団体が国や自治体と懇談や交渉の場をもたせられました。この数年20ナという事も、大がかりな交渉などは、できなかったのですが、少しでも現場の声をとどけてきました。署名の取り組みは、国や自治体へ声を届けるだけでなく、現場の実情を知ってもらう機会でもあります。入でも多くの方へ、記入してもらい、お方たちに実情を伝えて、いただきたいと思っております。

今年の1月に提起した「異次元の少子化対策」の具体策として「こども未来戦略方針」を6月13日に閣議決定しました。①1歳児の子ども6対保育士1から5対1にする②4.5歳児の子ども30人に対し保育士1人を25対1に改善することが盛り込まれたのは大きな前進です。75年ぶりの基準改善です。ですが、その実施時期は明示されていません。そして設定した条件を達成した施設のための「加算」という仕組みでの対応だったという大きな問題が明らかになりました。実際、矢向あけぼの保育園と国基準で保育士を配置できる数は、5.75人です。市の基準でも7人しか配置できません。それだけでは、園の運営はなりません。法人は、99目の人の配置をしています。配置基準が改善していくことで、様々な

図1 ●子どもに冷たい国、ニッポン



問題が解決していきますが、一方で保育士不足の問題も大きく、養成校等から昨年あたりより高校生を決心に保育士、教育の現場で働きたいと思う人が急激なペースで減少しているようです。保育の現場は「不適切保育」「保育士の処遇の悪化」などニュースや話題が24時間にはたらいはたらいしているようです。

保育園という存在が社会的にも大きいのであれば、しっかりと国や自治体の保育をよくしていく取り組みを進めてほしいと強く思います。ぜひ保護者の方も署名の取り組みをひろげていてほしいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。 <飯田千寿美>